

種子島から得られたコンゴウテンジクダイ およびスジイシモチ属魚類 8 種の標本に基づく記録

吉田朋弘¹・高山真由美²・本村浩之²

¹ 〒 851-2213 長崎市多良良町 1551-8 水産研究・教育機構 西海区水産研究所

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

テンジクダイ科魚類 Apogonidae は、日本から 26 属 103 種が報告されており (Yoshida and Motomura, 2018; 馬淵・吉田, 2018; Yoshida et al., 2018a, b, 2019), このうち 29 種がスジイシモチ属 *Ostorhinchus* に含まれる (馬淵・吉田, 2018; Yoshida et al., 2018a, 2019).

スジイシモチ属の一種コンゴウテンジクダイは、これまで国内において静岡県から鹿児島県本土の太平洋沿岸、薩摩半島西側、および大隅諸島の竹島と屋久島から記録されていた (吉田・本村, 2015; 村瀬ほか, 2017).

2019 年の 4 月 6 日と 4 月 26 日に大隅諸島種子島熊野沖からコンゴウテンジクダイが各 1 個体採集された。これらの標本は本種の標本に基づく種子島からの初記録であるため、ここに報告する。また、種子島産スジイシモチ属魚類 8 種を標本に基づき報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Randall et al. (1990) にしたがっ

Yoshida, T., M., Takayama and H. Motomura. 2019. First records of *Ostorhinchus fleurieu* (Perciformes: Apogonidae) from Tange-shima island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan, with specimen-based records of eight species of *Ostorhinchus* from the island. *Nature of Kagoshima* 46: 163–166.

✉ TY: Seikai National Fisheries Research Institute, Japan Fisheries Research and Education Agency, 1551-8 Tairamachi, Nagasaki 851-2213, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).

Published online: 26 October 2019

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-033.pdf

た。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm の精度で行い、計測値は体長に対する百分率で示した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り：KAUM (鹿児島大学総合研究博物館); KPM (神奈川県立生命の星・地球博物館)。

結果と考察

Ostorhinchus fleurieu Lacepède, 1802

コンゴウテンジクダイ (Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 130170, 体長 102.8 mm, 鹿児島県大隅諸島種子島熊野沖, 30°28'13"N, 130°58'32"E, 定置網, 2019 年 4 月 6 日, 高山真由美; KAUM-I. 131096, 体長 86.3 mm, 2019 年 4 月 26 日, 採集日以外は KAUM-I. 130170 と同じ。

記載 計測値と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は長楕円形で側扁する。吻は突出する。口はやや大きく、口裂はわずかに斜位。主上顎骨後縁は瞳孔中央直下を越える。前鼻孔は短い鼻管を形成し、吻端近くに位置する。後鼻孔は前鼻孔の斜め上後方、眼窩付近に位置する。上顎骨歯は歯帯を形成し、約 5–6 列に小円錐歯が並ぶ。下顎前方では 5 列の小円錐歯が歯帯を形成し、後方では 3 列となる。鋤骨は 1 列の円錐歯を有する。口蓋骨には 2–3 列の小円錐歯がある。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。第 1 背鰭起部は第 3 側線鱗の直上にある。第 2 背鰭起部は第 9 側線鱗の直上にある。臀鰭起部は第 10–11 側線鱗の直下にある。



Fig. 1. Fresh specimen of *Ostorhinchus fleurieu* from Tanega-shima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan (KAUM-I. 130170, 102.8 mm standard length).

胸鰭起部は第2側線鱗の直下であり、その先端は臀鰭起部上を越えない。腹鰭起部は第1側線鱗の直下にある。尾鰭は二分する。側線鱗列は完全で、鰓孔上端直上部から尾鰭基部まで連続する。

生鮮時の色彩 体側は銅色を呈し、腹部は黄色がかかった銀白色を呈する。吻端から眼を通り鰓蓋まで達する黒褐色帯があり、その上下には銀白色線がある。尾柄後端には樽型の黒色横帯を有する。背鰭は赤色がかかった橙色を呈する。臀鰭は赤色がかかった橙色であるが、臀鰭基部に黒色線があり、その外側は銀白色を呈する。尾鰭と胸鰭は赤色がかかる。腹鰭は黄色がかかった橙色を呈し、棘と第1軟条の先端は黒色がかかる。

分布 アフリカ東岸と紅海からソロモン諸島と日本にかけてのインド・西太平洋に広く分布する (Randall et al., 1990; Allen and Erdmann, 2012; 吉田・本村, 2015)。本種は国内では静岡県大瀬崎 (KPM-NR 62863, 97307)、静岡県黄金崎 (KPM-NR 88154)、愛媛県愛南町 (高木ほか, 2010; アオスジテンジクダイとして)、高知県大月町 (KPM-NR 95822)、宮崎県門川湾 (村瀬ほか, 2017)、鹿児島県大隅半島 (吉田・本村, 2015)、

薩摩半島 (吉田・本村, 2015)、竹島 (吉田・本村, 2015)、屋久島 (吉田・本村, 2015)、および種子島 (本研究) から記録されている。

備考 種子島から得られた標本は、第1背鰭棘数が7であること、胸鰭軟条数が14であること、体高が高い (体長の41.4-42.0%) こと、尾柄部に太く輪郭がぼやけている黒色横帯があることなどの特徴が吉田・本村 (2015) の報告した *Ostorhinchus fleurieu* の標徴とよく一致したため、本種と同定された。

日本におけるコンゴウテンジクダイの分布は「分布」の項で述べた通りであり、記載標本は種子島における標本に基づく初めての記録となる。

なお、本研究では鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されている標本に基づき、コンゴウテンジクダイの他に種子島から以下のスジシモチ属魚類8種を確認した。アオスジテンジクダイ *Ostorhinchus aureus* (KAUM-I. 62023, 体長86.4 mm; KAUM-I. 62024, 体長89.4 mm; KAUM-I. 62025, 体長90.5 mm)、スジシモチ *O. cookii* (KAUM-I. 63130, 体長88.0 mm; KAUM-I. 68454, 体長87.4 mm)、オオスジシモチ *O.*

doederleini (KAUM-I. 58666, 体長 97.1 mm ; KAUM-I. 66379, 体長 94.7 mm ; KAUM-I. 66417, 体長 95.7 mm ; KAUM-I. 83743, 体長 98.8 mm), ミナミフトスジイシモチ *O. nigrofasciatus* (KAUM-I. 66241, 体長 60.5 mm), クロホシイシモチ *O. notatus* (KAUM-I. 54092, 体長 70.4 mm ; KAUM-I. 54304, 体長 75.0 mm ; KAUM-I. 54339, 体長 72.2 mm ; KAUM-I. 54348, 体長 57.0 mm ; KAUM-I. 54350, 体長 61.2 mm), キンセンイシモチ *O. properuptus* (KAUM-I. 56518, 体長 58.1 mm ; KAUM-I. 61901, 体長 58.1 mm ; KAUM-I. 61942, 体長 57.4 mm ; KAUM-I. 61943, 体長 54.6

mm ; KAUM-I. 61944, 体長 56.7 mm), ネンブツダイ *O. semilineatus* (KAUM-I. 62223, 体長 76.8 mm ; KAUM-I. 62230, 体長 79.6 mm ; KAUM-I. 62234, 体長 74.2 mm ; KAUM-I. 62242, 体長 73.7 mm ; KAUM-I. 62243, 体長 74.1 mm), およびミスジテンジクダイ *O. taeniophorus* (KAUM-I. 61266, 体長 63.5 mm ; KAUM-I. 66117, 体長 64.3 mm ; KAUM-I. 66304, 体長 46.3 mm ; KAUM-I. 66349, 体長 45.2 mm ; KAUM-I. 66416, 体長 97.2 mm ; KAUM-I. 68464, 体長 82.6 mm).

Table 1. Meristics and morphometrics of specimens of *Ostorhinchus fleurieu* from Tanega-shima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan.

	KAUM-I. 130170	KAUM-I. 131096
Standard length (SL, mm)	102.8	86.3
Dorsal-fin rays	VII-I, 9	VII-I, 9
Anal-fin rays	II, 8	II, 8
Pectoral-fin rays (left/right)	14 /14	14 /14
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5
Pored lateral-line scales	24	24
Transverse scale rows above lateral line	2	2
Transverse scale rows below lateral line	6	6
Median predorsal-fin scale rows	5	5
Developed gill rakers	18	17
Gill rakers including rudiments	20	21
% of SL		
Body depth	42.0	41.4
Body width	18.7	17.4
Head length	40.4	39.7
Snout length	9.3	9.4
Eye length	13.2	13.4
Interorbital width	8.9	8.9
Upper-jaw length	19.6	20.2
Caudal-peduncle depth	16.7	14.4
Caudal-peduncle length	19.6	21.7
Pre-dorsal-fin length	41.1	42.3
1st dorsal-fin spine length	2.0	2.4
2nd dorsal-fin spine length	7.9	8.9
3rd dorsal-fin spine length	18.1	20.7
4th dorsal-fin spine length	19.5	21.3
1st spine length of 2nd dorsal fin	14.3	15.6
Longest dorsal-fin soft ray length	23.4	25.0
Pre-anal-fin length	68.6	64.8
1st anal-fin spine length	1.9	3.0
2nd anal-fin spine length	13.0	14.5
Longest anal-fin soft ray length	21.3	22.1
Caudal-fin length	30.2	29.1
Caudal-fin concavity length	8.1	—
Pectoral-fin length	26.9	28.0
Pre-pelvic-fin length	39.0	40.9
Pelvic-fin spine length	14.7	15.9
Longest pelvic-fin soft ray length	22.1	24.7

■ 謝辞

本報告をまとめるにあたり、種子島漁業協同組合の皆様には貴重な標本を採集・寄贈していただいた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館分類学研究室の皆さまには標本の作製・登録作業等を手伝っていただいた。以上の諸氏に対して謹んでお礼を申し上げます。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS 科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

■ 引用文献

- Allen, G. R. and Erdmann, M. V. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. xiv + 1294 pp. Tropical Reef Research, Perth.
- 馬淵浩司・吉田朋弘. 2018. テンジクダイ科 Apogonidae. Pp. 248–253. 中坊徹次(編), 小学館の図鑑Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 本村浩之, 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 村瀬敦宣・和田正昭・三木涼平・宮崎祐介. 2017. 宮崎県門川湾で採集されたコンゴウテンジクダイ *Ostorhinchus fleurieu* の標本に基づく北限記録. 日本生物地理学会会報, 71: 183–187.
- Randall, J. E., Fraser, T. H. and Lachner, E. A. 1990. On the validity of the Indo-Pacific cardinalfishes *Apogon aureus* (Lacépède) and *A. fleurieu* (Lacépède), with description of a related new species from the Red Sea. Proceedings of the Biological Society of Washington, 103: 39–62.
- 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親(編). 2010. えひめ愛南お魚図鑑. 250 pp. 創風社出版, 松山市.
- Yoshida, T., Harazaki, S. and Motomura, H., 2019. Yellow-lined cardinalfish *Ostorhinchus chrysoaenia* (Perciformes: Apogonidae) from Yaku Islands, Osumi Islands; first specimen-based Japanese records, with an assessment of the holotype of the species. Species Diversity, doi: 10.12782/specdiv.24.189.
- Yoshida, T., Hayashi, M. and Motomura, H., 2018a. *Ostorhinchus yamato*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-016-0539-2.
- Yoshida, T., Mabuchi, K. and Motomura, H., 2018b. *Rhabdamia novaluna*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from the western Pacific Ocean, with comments on the synonymy of *Rhabdamia gracilis*. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-018-0664-1.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2015. 鹿児島県から得られた日本初記録のテンジクダイ科魚類コンゴウテンジクダイ(新称) *Ostorhinchus fleurieu*. タクサ, (39): 17–24.
- Yoshida, T. and Motomura, H., 2018. Redescription of the Indo-West Pacific cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) *Rhabdamia spilota* Allen & Kuitert 1994 and *R. gracilis* (Bleeker 1856). Zootaxa, 4377: 178–190.